

東アジアの写真文化連携—初の国際フォーラム

写真文化を通じた東アジア地域の連携を目指して、東川町、東川町写真の町実行委員会は2月9日、農村環境改善センターで初の東アジア写真文化国際フォーラムを開きました。

本町が「写真の町」宣言30年、東川町国際写真フェスティバル開催30周年を迎えるのを機に、各地に呼びかけて開きました。

(社)日本写真協会の大平温(ゆたか)業務執行理事、神奈川県相模原市の「フォトシティさがみはら」実行委員会・角村美文委員長ら2人、芦北フォトフェスティバル実行委員の写真家、今岡昌子さん(熊本県芦北町)、韓国江原道寧越郡のジョン・スンウ写真博物館学芸士ら2人、台湾東方設計学院の邱奕堅写真学位学程学科長が出席。関係団体同士の今後の連携と交流などを話し合いました。

基調講演した大平氏は、同協会が毎年開催している東京写真月間を引き合いに、「アジアの写真家と長年交流を重ねてきた。写真家の紹介、バックアップなど、情報を支援できる」などと



連携に前向きな姿勢を示しました。

前日に写真文化推進連絡協議会の設立総会を開き、写真文化を通じてまちづくり、地域づくりを進める自治体と連携を図る同協議会が発足しました。

今年9月20、21の両日には、山口県周南市など賛同する自治体関係者が参加して本町で初の総会を予定。写真文化で積極的なまちづくり、地域づくりの連携を強くアピールします。

「小巻ぎ」のりどなが〜記録更新

1月26日、第一小学校(澤田安男校長、29人)が今年も全校生で「小巻ぎ」づくりに挑戦。昨年を約2メートル更新して全長23・4メートルと長い手巻きののり巻き寿司を作りました。お昼は体育館に集まってみんなで昼食会。

「おいしい」と大き目に切り分けたのり巻きを2本、3本とペロリと平らげ舌鼓。

節分恵方巻きに習って、3年前に全校で太巻きを手作りしたのが始まり。のり巻きづくりに必要な米は、隣地の金森登さんの田んぼ



を借りている学校田で収穫した「おぼろぎ」12kgを使い、加えて、今年も学校ビニールハウスを使って夕顔とシイタケ栽培に挑戦。ごはんや包む具の中のかんぴょうと干しシイタケも手作りました。

みそ汁用の手作り豆腐にも挑戦しましたが、こちらは失敗。急ぎよ、町内の豆腐店から取り寄せに。年を追って自前の食材が増え「来年こそは豆腐作りも成功させたい」と気合いを入れ直していました。

爽快! スノーモービルのスピード満喫

2月18日、道立東川養護学校小学部の子どもたちがスノーモービルに乗ってスピード感を満喫しました。

7南区の農業、山中仁志さん(67)の広い田んぼがいつものスノーモービル広場。東雲の梶畑直



敏さん(45)、北町3丁目、森本大記さん(42)、18区、篠原猛志さん(42)ら毎年集まる友人がそれぞれモービルを持ち寄って子供たちを迎えました。

雪中コースはしっかり固めて万全の整備。40人の子どもたちが交互に3台の

モービルに乗り、風を切って真っ白な雪上を疾走しました。

この日を楽しみにしている子どもたちは、前の日からワクワク。モービルの運転席に乗ったり、大型タイヤチューブの特製そりに乗り込んで満面の笑顔いっぱい。

山中さんらは、養護学校の子どもたちにもスノーモービルの楽しい遊びを企画し、今年で27年目。喜ぶ笑顔を毎年楽しみに「これからも続けるよ」。